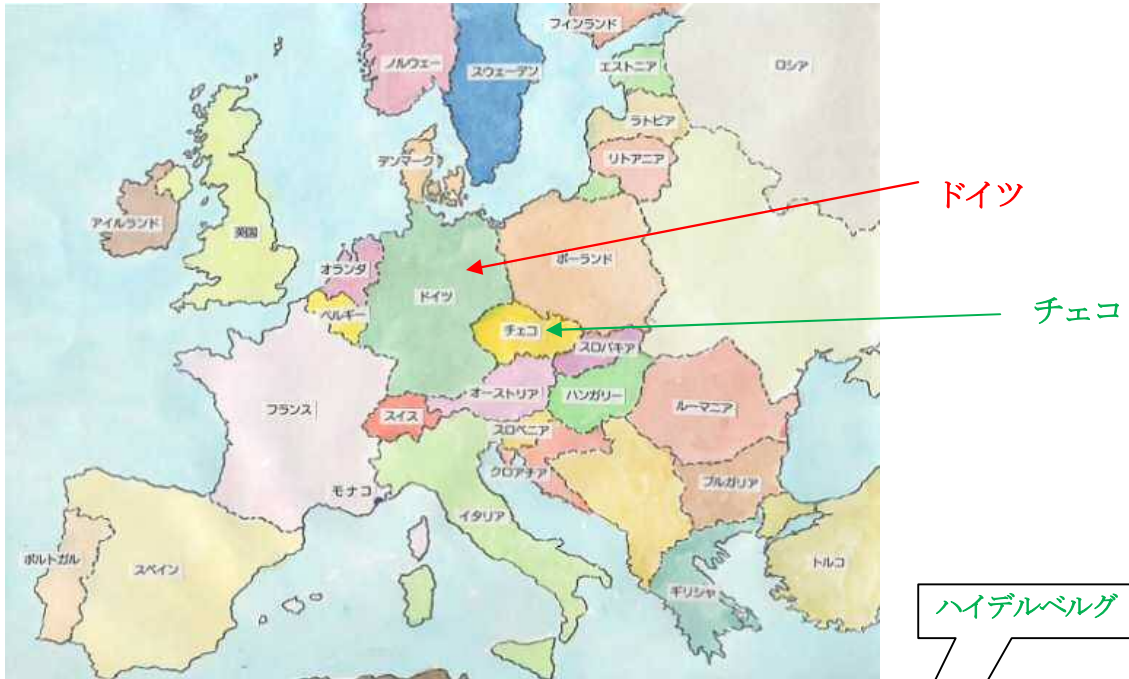


# たまにはドイツ

愛媛大学総合健康センター 村上 和恵





夕刻フランクフルト空港に到着。鉄道に乗り換えて  
カールスルーエへ。鉄道運賃はドイツバーンのカー  
ドで25%引かー！

カールスルーエではキリちゃんがお待ちかね。10月で3歳。



キリちゃんは乗り物が大好き。トラムは広々していて快適！アパートの目の前が電停。





ヨーロッパプラッツにある郵便局は Post Gallery (ポスト ギャラリー) と呼ばれていた。



ヨーロッパプラッツの電停。 ヨーロッパプラッツはカールスルーエの中心のようなところかな？



ヨーロッパプラッツ，ドイツの鉄道は縦横無尽？ 時間表示がしっかりしている。次から次へとトラムが来るため乗り過ごしても心配ない。



カールスルーエ城の公園。日没が午後9時ころなので市民の憩いの場になっている。これは、昔の戦いを真似ているようですね。指導者のもとでルールに従い武器を使用。もちろん危険はなさそう。





公園の広い敷地の中を散歩中にバーバラと出会った。15年前にアジアを旅してまわったという。



お城の裏側の散歩道



ある日はカールスルーエのメインステーションの前にある動物園へ。初めて見るペンギンさんにキリちゃんは大喜び。



クジャクの親子がすぐ横に！







ここからはカールスルーエ工科大学化学生物科学部の植物園 黒いトマト栽培中





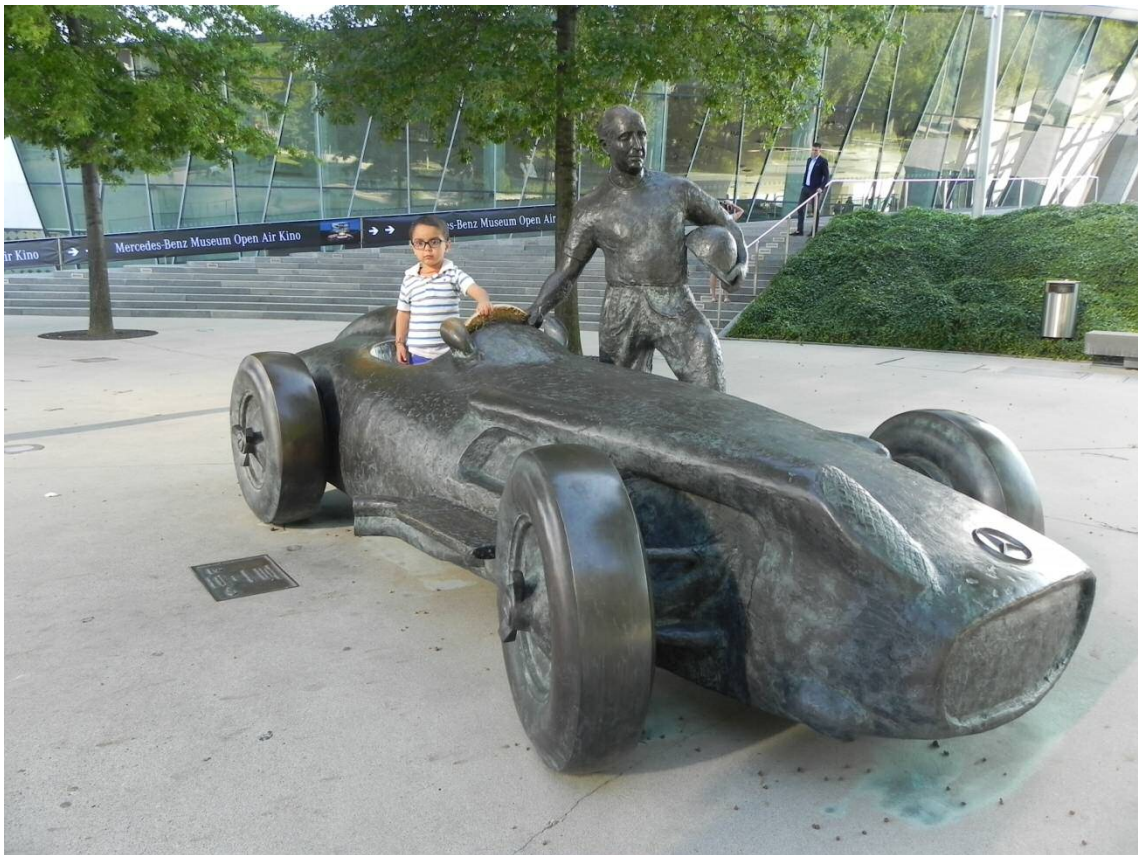
ここからはシュツットガルト。サッカーやベンツ、ボルシエで有名。  
ベンツミュージアムは8階建て。まず一気に最上階まで上がりそこから螺旋状に歩きながら展示を見てまわる。60歳以上の入館料は半額。圧巻の展示を見て触れて感じてください、ぜひ！



ベンツミュージアムの目の前には美しいサッカーのグラウンドが3面。本当にすぐ目の前。











ここからは学生の街ハイデルベルグ



1700年代創業のレストランで定番のソーセージとビール。とても美味しかった。



ランチの後に哲学の道（傾斜がきつく、こんな道で考え事をしながら歩けるわけない！！）を登ればそこには素晴らしい景色が！



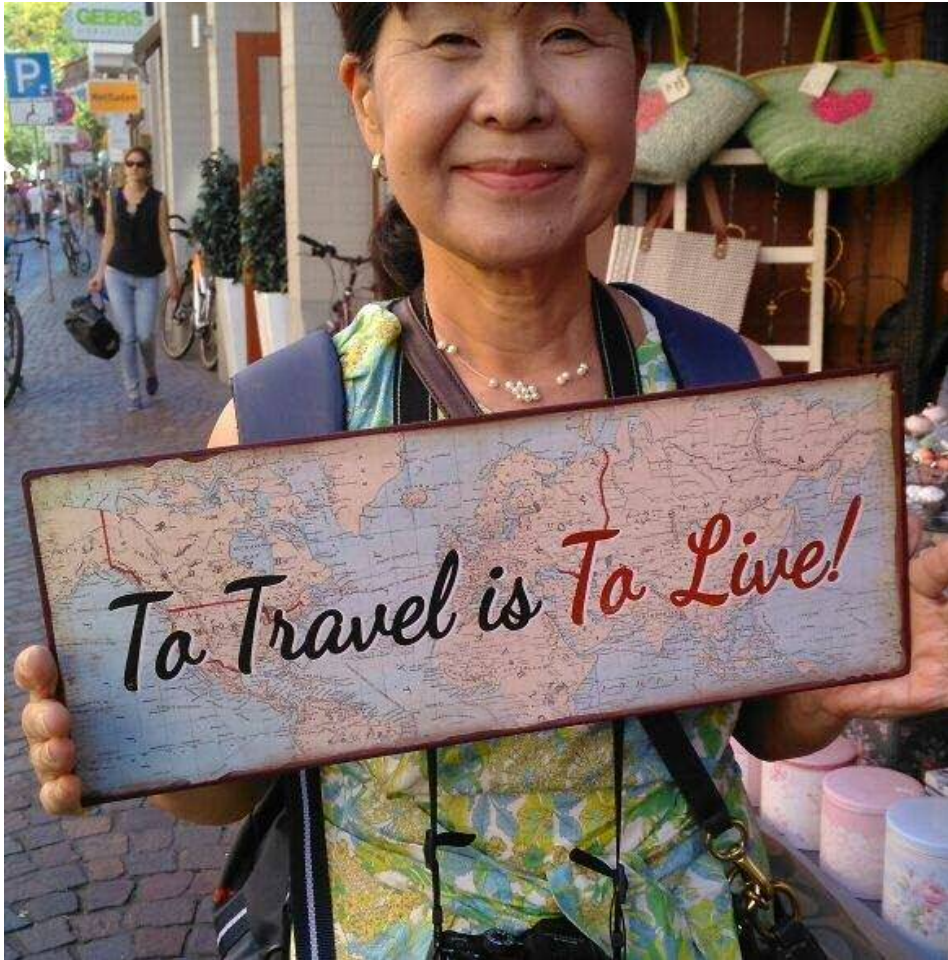
アイスクリームやケーキはどこでもたっぷり、とても美味しかった！

中世のお城





ここからは松山の姉妹都市フライブルグ市。とてもきれいな街。



訪れた土曜日、大聖堂の周りにはマーケットが立ち、小さなたくさんのお店に人々がひしめきあっていた。





Hokaido というカボチャ。チェコでもみかけた。



旧市街にはいたるところに小さな水路がめぐらされていて子どもたちは水遊びを楽しんでいる。



素敵な音色につられてCDを一枚購入。ブラームスやビゼーなどが収録されていて楽しい。





子どもたちが次から次へと滑っている。ドイツの子供は小さなころからたくましい。



ここから下はドイツとスイスにまたがる湖の街コンスタンツ。歴史も古くきれいな街。



ボーデン湖。この右手には信じられないくらいたくさんのヨットが繫留されている。  
この像はコンスタンツの宗教会議（1414-1418）が開かれていた時代の愛妾“美しいインペリア”を表しているというのだが。



これもボーデン湖畔 とても大きな湖だ。



コンスタンツ旧市街。古い建物 1200年代のものようだ。ただし表は新しそう。



本屋さんも 1500 年代創業。奥には庭と小さな東屋にカフェ，子どもの遊ぶスペースもあり，子どもならずとも落ち着く。



古いカフェではヘンゼルとグレーテルコーヒーなるものを特別に作ってもらった。





コンスタンツにある大聖堂の屋上。狭い螺旋階段を上りに上ってドアを開けると、優しい風が心地よい♪ 眼下に広がる景色もほっとさせるものがある。



向こうにはきれいに手入れされたブドウ畑が広がる。ドイツはワインでも有名だ。





コンスタンツのメインステーションで出会った聖職者。インド人二人はクリスチヤンの学校出身なので思わず声をかけたらしい。





コンスタンツの郊外ではこんな可愛い車をいくつも見かけた。ここではフォルクスワーゲンがよく走っていた。ちなみにシュツットガルトではどこもかしこもベンツだらけ。



このお店のペストリーは大人気なので、わざわざ遠くから買いに来る固定客も多い。長蛇の列。日本の「道の駅」のような感じ。





コンスタンツの国境ドイツ領



国境





スイス側、ちょっと殺風景



カールスルーエに戻ってきた。ハンバーガーで有名なレストランで地元のビールとともに。







真っ暗な中で撮ったので周囲がわかりにくい。このボックスの中には本がいっぱい詰まっている。これは道端の図書館。鍵はかかっただけで、勝手に借りて行き、読み終えれば戻す。

旅の記念品：帰国の前日ヨーロッパプラッツにあるアンティークショップで見つけた小ぶりのサーバー、シルバーかな？模様が美しい。他にも 1740 年ころの木版画など、ドイツならではのものをいくつか購入した。アンティークショップをのぞくときにはルーペとマークブックが必要。





夏期休暇を利用して、松山を発ち成田で一泊したのちフランクフルトへと飛び立ちました。12時間といえば半日。しかし、時間の流れを感じさせないくらい快適な空の旅でした。フランクフルト第2ターミナルDに到着。そこから列車でメインハイムを経てカールスルーエへ。所要時間はローカル線で乗り換えも含めて1時間20分ほど。カールスルーエのHBF（メインステーション）から乗り換えなしのトラムで15分のところにアパートはあります。ドイツと日本との時差は7、8時間くらい。サマータイムがありますので今は7時間。午後8時頃でしたが外はまだ明るく爽やかな気候です。ドイツは2度目です。前はドレスデン、ライプチヒ3日間の短い滞在でした。

最初の1週間はアパートの周りやヨーロッパプラッツ、カールスルーエ城付近、そしてカールスルーエ工科大学を行ったり来たり。残りの1週間で近隣のフライブルグ、シュツットガルト、ハイデルベルグ、コンスタンツを訪れました。実は帰国前日にフランスのストラズブール日帰りを考えていたのですが、直前にちょっとした事件がありましたので、中止しました。

気候は日本の5月から初夏のような感じです。今年のヨーロッパの8月は信じられないくらい暑かったのですが、今年は過ごしやすかったですね。食べ物は美味しい。意外とドイツ人はベジタリアンが多いのに驚きました。エコ感覚なのでしょうか。

言葉はほとんど英語で大丈夫でした。日本とあまり変わらないとはいえ、移民の数の多さは聞きしに勝るものでした。地方都市に滞在しましたので、あくせくすることもなく、午後4時には子どもと一緒に昼寝。起きればコーヒーとお菓子をつまみ、公園や買い物へ。夜9時、ようやくあたりが暗くなり始めると帰宅夕食。海外ではいつもゆっくりと時間が過ぎて行きますので、まるで一年分の休養をまとめてとっているようです。

しかし、帰途が大変でした。いくつもの台風が一度にやって来たため成田空港は閉鎖。名古屋中部国際空港へいったん着陸し、機内で2時間過ごしたのちふたたび成田空港へ。すでにフランクフルト出発も2時間遅れでしたので、当然国内の接続便はすべてキャンセルです。新しくフライトを確保するための列に加わり、ようやく決まったのがさらに2時間後。そこから羽田へのリムジンバスの座先確保の長いに並ぶのですが、カウンターから聞こえてきたのは「全席満席です。」という冷たい言葉！しかも羽田周辺のホテルはすべて満室！これには参りました。

さて、どうするか？とにかくその日のうちに東京に出なくては、ということでようやく東京駅までたどり着くことができましたが、時すでに23時過ぎ。途中、東京大学でポストクをしているプルニマに電話を入れたところ迎えに来てくれるとのこと。大きなスーツケース2個を抱えて田無のアパートに着けば時計はとっくに午前1時を回っていました。

翌早朝4時起床。5時半田無駅出発。うまく乗りついで午前7時25分発の便で無事に帰松できました。この間プルニマだけでなく、夜中にもかかわらずホテルの空き室調べを次から次へとしてくれた生協のトラベルカウンターの村岡さん、プルニマとの連絡に奔走？してくれたインド人留学生たち、多くの人の世話になりました。旅にトラブルはつきものなので何が起ころうとも不思議はない、と思いつつ毎回家を後にします。しかし！それにしてもスマホとカードは便利ですが、人のネットワークはそれ以上にありがたい！ということですね。

では、またお目にかかる日を楽しみに～♪